

INFECTIOUS DISEASES WEEKLY REPORT

TOKYO IDWR

東京都感染症情報センター

東京都感染症週報

2018年第51週
(12月17日～12月23日)

- * 2018年12月26日現在の情報により作成しています。
最新のデータは「Web版感染症発生動向」をご覧ください。
<http://survey.tokyo-eiken.go.jp/>
- * 今週は感染症豆知識「インフルエンザの診断と治療(ソフルーザ等の新しい動向)」も掲載しています。

平成30(2018)年12月27日発行

編集・発行

東京都健康安全研究センター
健康危機管理情報課

電話：03-3363-3213(直通)
FAX：03-5332-7365
e-mail：www@tokyo-eiken.go.jp

全数把握対象疾患 報告数（一類～四類） 2018年51週

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		48週	49週	50週	51週	年累計	51週	年累計
一類	エボラ出血熱							
	クリミア・コンゴ出血熱							
	痘そう							
	南米出血熱							
	ペスト							
	マールブルグ病							
	ラッサ熱							
二類	急性灰白髄炎							
	結核	62	66	60	38	3,224	349	21,342
	ジフテリア							
	重症急性呼吸器症候群 ^{*1}							
	中東呼吸器症候群 ^{*2}							
	鳥インフルエンザ(H5N1)							
	鳥インフルエンザ(H7N9)							
三類	コレラ							4
	細菌性赤痢	4	17	9	2	109	3	267
	腸管出血性大腸菌感染症	10	1	5		462	20	3,815
	腸チフス					11		35
	パラチフス	1		1		10		23
四類	E型肝炎	2		2	1	100	5	435
	ウエストナイル熱							
	A型肝炎	5	5	4	3	421	8	918
	エキノコックス症							12
	黄熱							
	オウム病					2		6
	オムスク出血熱							
	回帰熱							6
	キャサヌル森林病							
	Q熱					2		3
	狂犬病							
	コクシジオイデス症							2
	サル痘							
	ジカウイルス感染症							
	重症熱性血小板減少症候群 ^{*3}							77
	腎症候性出血熱							
	西部ウマ脳炎							
	ダニ媒介脳炎							1
	炭疽							
	チクングニア熱							4
つつが虫病	1	1	1		9	17	417	
デング熱	1	1	1		61	3	198	
東部ウマ脳炎								
鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く)								

*1 病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。

*2 病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る。

*3 病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る。

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		48週	49週	50週	51週	年累計	51週	年累計
四 類	ニパウイルス感染症							
	日本紅斑熱							301
	日本脳炎							
	ハンタウイルス肺症候群							
	Bウイルス病							
	鼻疽							
	ブルセラ症							3
	ベネズエラウマ脳炎							
	ヘンドラウイルス感染症							
	発しんチフス							
	ボツリヌス症					1		2
	マラリア				1	14	2	49
	野兔病							
	ライム病					1		13
	リッサウイルス感染症							
	リフトバレー熱							
	類鼻疽					1		2
	レジオネラ症	3		1	6	159	38	2,098
レプトスピラ症					5		31	
ロッキー山紅斑熱								
2018/12/26集計								

(全数把握対象疾患のコメント・一類～五類)

〈二類感染症〉

結核 38件 患者 27件(肺結核 20件、その他の結核 6件、肺結核及びその他の結核 1件)、無症状病原体保有者 11件、年齢は10歳未満 2件(うち5歳未満 1件)、20代 7件、30代 2件、40代 4件、50代 1件、60代 3件、70代 5件、80代 10件、90歳以上 4件、推定感染地は国内 28件、スウェーデン 1件、不明 9件であった。

〈三類感染症〉

細菌性赤痢 2件 患者 2件、菌種はソンネ 2件、年齢は10歳未満 1件、30代 1件、推定感染地は国内 2件、推定感染経路は接触感染 2件であった。

〈四類感染症〉

E型肝炎 1件 患者、年齢は60代、推定感染地は国内又はインド又はミャンマー又はベトナム、推定感染経路は経口感染であった。

A型肝炎 3件 患者 3件、年齢は40代 1件、50代 1件、60代 1件、推定感染地は国内 3件、推定感染経路は同性間性的接触 2件、経口感染 1件、A型肝炎ワクチン接種歴は無し 1件、不明 2件であった。

マラリア 1件 病型不明、年齢は50代、推定感染地はルワンダであった。

レジオネラ症 6件 病型は肺炎型 6件、年齢は50代 3件、60代 1件、70代 1件、80代 1件、推定感染地は国内 5件、米国 1件、推定感染経路は水系感染 2件、塵埃感染 1件、不明 3件であった。

〈五類感染症〉

アメーバ赤痢 7件 病型は腸管 7件、年齢は40代 1件、50代 2件、60代 3件、70代 1件、推定感染地は国内 5件、タイ 1件、タイ又は台湾 1件、推定感染経路は異性間性的接触 5件、経口感染 1件、不明 1件であった。

カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 8件 病原菌はエンテロバクター・アエロゲネス 4件、クレブシエラ・オキシトカ 1件、セラチア属菌 1件、肺炎桿菌 2件、年齢は50代 1件、70代 2件、80代 4件、90歳以上 1件、推定感染地は国内 8件、推定感染経路は以前からの保菌 2件、医療器具関連感染 1件(尿路カテーテル)、以前からの保菌又は医療器具関連感染 2件、不明 3件であった。90日以内の海外渡航歴はすべて無しであった。

劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1件 血清群はA群、年齢は50代、推定感染地は国内、推定感染経路は不明であった。

後天性免疫不全症候群 12件 AIDS 2件、無症候キャリア 10件、性別は男性 12件、AIDS患者の年齢は30代 1件、40代 1件、無症候キャリアの年齢は20代 6件、30代 1件、40代 3件、推定感染地は国内 9件、不明 3件、推定感染経路は性的接触 10件(同性間 8件、異性間 1件、両性間 1件)、不明 2件であった。

※ 第50週該当分として〔三類〕パラチフス1件の追加報告があった。

全数把握対象疾患 報告数（五類） 2018年51週

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		48週	49週	50週	51週	年累計	51週	年累計
五 類 (全 数 届 出)	アメーバ赤痢	2		3	7	162	8	816
	ウイルス性肝炎(A型・E型を除く)	1	4	3		67	2	257
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	3	7	5	8	227	38	2,196
	急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く) *1			1		8	2	138
	急性脳炎 *2	2	1	1		60	10	634
	クリプトスポリジウム症					3	1	25
	クロイツフェルト・ヤコブ病		1			25	2	215
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	1	1	1	85	11	669
	後天性免疫不全症候群	9	9	8	12	411	12	1,262
	ジアルジア症					19		67
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1	1		2	40	9	470
	侵襲性髄膜炎菌感染症					6	1	35
	侵襲性肺炎球菌感染症	13	12	7	4	380	42	3,197
	水痘(入院例に限る)	1		2	1	57	6	446
	先天性風しん症候群							
	梅毒	36	40	39	28	1,734	79	6,782
	播種性クリプトコックス症	1				18	4	175
	破傷風					8	1	124
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症							
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症				1	7		77
百日咳 *3	89	105	66	76	2,355	250	11,560	
風しん	38	28	33	24	923	84	2,806	
麻しん		1		1	21	2	274	
薬剤耐性アシネトバクター感染症					4		23	

2018/12/26集計

*1 2018年5月1日より追加指定された。

*2 ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

*3 2018年1月1日より追加指定された。

侵襲性インフルエンザ菌感染症 2件 血清型は検査未実施、年齢は5歳未満 2件、推定感染地は国内 2件、推定感染経路は不明 2件、ヒブワクチン接種歴は4回接種済み 1件、3回接種済み 1件であった。

侵襲性肺炎球菌感染症 4件 血清型はすべて検査未実施、年齢は10代 1件、60代 1件、70代 1件、80代 1件、推定感染地は国内 4件、推定感染経路は不明 4件、肺炎球菌ワクチン接種歴は7価1回接種済み 1件、価数不明1回接種済み 1件、無し 1件、不明 1件であった。

水痘(入院例) 1件 検査診断例、年齢は20代、推定感染地は国内、推定感染経路は不明、水痘ワクチン接種歴は不明であった。

梅毒 28件 患者 19件(早期顕症梅毒Ⅰ期 5件、早期顕症梅毒Ⅱ期 13件、晩期顕症梅毒 1件)、無症候梅毒 9件、性別は男性 21件、女性 7件、年齢は20代 10件、30代 1件、40代 7件、50代 6件、60代 3件、70代 1件、推定感染地は国内 26件、不明 2件、推定感染経路は性的接触 24件(同性間 8件、異性間 14件、性別不明 2件)、不明 4件であった。

バンコマイシン耐性腸球菌感染症 1件 遺伝子型はVanB、年齢は60代、推定感染地は国内、推定感染経路は不明であった。

百日咳 76件 年齢は10歳未満 38件(うち5歳未満 5件)、10代 16件、20代 2件、30代 5件、40代 5件、50代 6件、70代 3件、80代 1件、推定感染地は国内 63件、不明 13件、百日咳含有ワクチン接種歴は4回接種済み 42件、3回接種済み 1件、1回接種済み 1件、無し 4件、不明 28件であった。

風しん 24件 検査診断例 24件、年齢は10代 1件、20代 5件、30代 8件、40代 6件、50代 4件、推定感染地は国内 20件、不明 4件、推定感染経路は飛沫感染 6件、飛沫感染又は接触感染 1件、不明 17件、風しん含有ワクチン接種歴は1回接種済み 1件、無し 8件、不明 15件であった。

麻しん 1件 検査診断例、遺伝子型はD8、年齢は30代、推定感染地はマレーシア、推定感染経路は不明、麻しん含有ワクチン接種歴は不明であった。

※ 第49週で報告のあった〔五類〕風しん 1件は削除された。

※ 第32週該当分として〔五類〕梅毒 1件の追加報告があった。

※ 第33週該当分として〔五類〕後天性免疫不全症候群 2件、梅毒 1件の追加報告があった。

※ 第34週該当分として〔五類〕アメーバ赤痢 2件、後天性免疫不全症候 1件、梅毒 1件の追加報告があった。

※ 第38週該当分として〔五類〕百日咳 4件の追加報告があった。

※ 第42週該当分として〔五類〕百日咳 2件の追加報告があった。

※ 第45週該当分として〔五類〕百日咳 1件の追加報告があった。

※ 第46週該当分として〔五類〕百日咳 1件の追加報告があった。

※ 第50週該当分として〔五類〕百日咳 1件の追加報告があった。

定点把握対象疾患 報告数 2018年51週

上段: 報告数
下段: 定点当たり

定点種別	対象疾患	2018年				報告 医療 機関数	定点 医療 機関数			
		48週	49週	50週	51週					
小児科	RSウイルス感染症	71 0.27	64 0.24	72 0.27	64 0.24	262	264			
	咽頭結膜熱	114 0.43	126 0.48	138 0.52	106 0.40					
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	851 3.24	914 3.49	856 3.25	940 3.59					
	感染性胃腸炎	2,838 10.79	3,151 12.03	3,319 12.62	3,573 13.64					
	水痘	200 0.76	146 0.56	202 0.77	175 0.67					
	手足口病	296 1.13	214 0.82	209 0.79	181 0.69					
	伝染性紅斑	575 2.19	625 2.39	538 2.05	549 2.10					
	突発性発しん	138 0.52	124 0.47	106 0.40	103 0.39					
	ヘルパンギーナ	18 0.07	22 0.08	18 0.07	8 0.03					
	流行性耳下腺炎	27 0.10	33 0.13	15 0.06	16 0.06					
	川崎病 ^{*1}	3 0.01	7 0.03	4 0.02	8 0.03					
	不明発しん症 ^{*1}	21 0.08	16 0.06	14 0.05	8 0.03					
	インフル エンザ	インフルエンザ ^{*2}	392 0.94	654 1.57	1,117 2.68			3,233 7.79	415	419
			眼科	急性出血性結膜炎						
	流行性角結膜炎	22 0.58	13 0.34	20 0.54	21 0.58					
基幹	細菌性髄膜炎 ^{*3}	1 0.04	1 0.04		1 0.04	25	25			
	無菌性髄膜炎									
	マイコプラズマ肺炎	17 0.68	8 0.32	7 0.28	17 0.68					
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	3 0.12			1 0.04					
	感染性胃腸炎(ロタウイルス) ^{*4}			1 0.04	2 0.08					
	インフルエンザ入院	15 0.60	3 0.12	5 0.20	20 0.80					

2018/12/26集計

*1 不明発しん症、川崎病は東京都が独自に指定する疾患である。

*2 鳥インフルエンザを除く。

*3 インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。

*4 病原体がロタウイルスであるものに限る。

* 百日咳は2018年1月1日より五類(定点把握対象)から五類(全数把握対象)に変更

(今週の注目される定点把握対象疾患)

- ・ 伝染性紅斑は警報レベルが続いています。
- ・ インフルエンザは流行期に入っています。
- ・ 感染性胃腸炎は報告数が増加しており、一部非常に高い地域が見られます。
- ・ 咽頭結膜熱は報告数の高い地域があります。

定点把握対象疾患 報告数【年齢階級別】 2018年51週

	小児科										
	RS ウイルス 感染症	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	ヘルパン ギーナ	流行性 耳下腺炎	川崎病
～5か月	9			17	3			1			
6～11か月	28	6	8	176	2	5	3	28			
1歳	15	23	30	572	3	38	25	53	4	1	2
2歳	4	15	47	436	4	55	27	10	2	1	1
3歳	5	16	62	375	13	29	67	6		2	2
4歳	3	16	106	328	6	20	85	2	2	2	2
5歳		19	135	290	22	13	81	2		1	1
6歳		2	115	251	23	5	101	1			
7歳		2	122	164	26	3	53			3	
8歳			84	159	22	3	49			3	
9歳		2	71	110	17	4	24				
10～14歳		1	113	269	29	4	29			2	
15～19歳			5	60	1						
20～29歳		4	42	366	4	2	5			1	
30～39歳											
40～49歳											
50～59歳											
60～69歳											
70～79歳											
80歳以上											
合計	64	106	940	3,573	175	181	549	103	8	16	8
先週比	-8	-32	84	254	-27	-28	11	-3	-10	1	4

注:小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

	小児科	インフルエンザ	眼科			基幹				
	不明 発しん症	インフル エンザ	急性出 血性結 膜炎	流行性角 結膜炎	細菌性 髄膜炎	無菌性 髄膜炎	マイコ プラズマ 肺炎	クラミジ ア肺炎	感染性 胃腸炎 (ロタウイルス)	インフル エンザ 入院
～5か月	1	4		1	1				1	
6～11か月		26					1			
1歳	1	63					2			2
2歳	2	77		3			1			
3歳	1	103					1			
4歳		130								1
5歳		176		3						
6歳		216								3
7歳		349					2			1
8歳	2	293		1					1	
9歳		253					4			1
10～14歳	1	574					4			4
15～19歳		124		2			1			
20～29歳		167								
30～39歳		228		7						1
40～49歳		256		3			1			2
50～59歳		108								
60～69歳		53		1						
70～79歳		22						1		1
80歳以上		11								4
合計	8	3,233		21	1		17	1	2	20
先週比	-6	2,116		1	1		10	1	1	15

注:小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

定点把握対象疾患 定点医療機関当たり報告数【保健所別】 2018年51週

	小児科										
	RS ウイルス 感染症	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	ヘルパン ギーナ	流行性 耳下腺炎	川崎病
千代田		0.33	2.67	5.33			1.67				0.33
中央区		1.67	3.00	32.67	1.67	3.33	5.00	0.33	0.33		
みなと		0.67	4.83	11.17	0.33	0.83	1.83	0.33		0.17	
新宿区	0.63		2.38	7.88	0.25	0.13	0.50	0.25			0.13
文京	0.25	0.25	3.25	14.75		0.50	2.75	0.75		0.50	
台東		2.25	5.00	31.50	0.25		3.50	0.25	0.25		
墨田区	0.20	0.40	0.20	13.20	0.40		0.60	0.60			0.20
江東区	0.11		3.56	21.67	0.67	1.44	2.67	0.56		0.22	
品川区	0.13	0.13	1.38	12.13	0.25	0.38	1.75	0.13	0.13		
目黒区	0.40	0.20	4.80	13.00	0.20	0.20	1.40	0.80	0.20		0.20
大田区	0.15	0.85	2.77	15.31	0.54	1.23	1.77	0.31			0.08
世田谷	0.31	0.38	4.38	12.56	1.00	0.75	2.13	0.06			
渋谷区		0.50	0.50	10.25	0.25	0.75	0.75				
中野区		0.67	5.00	17.67	0.17	1.83	0.83	0.50			
杉並		0.18	4.27	8.27	0.27	0.36	1.36	0.55			0.09
池袋	0.75	0.50	1.25	2.25	0.50		1.00				
北区			2.57	10.14	0.86	0.86	1.14	0.43			
荒川区	0.75	1.25	4.25	22.25	0.75	2.25	1.50	1.25			
板橋区			0.40	8.80	0.70	0.20	1.80	0.40			
練馬区	0.23	0.15	4.85	12.77	0.92	0.77	0.92	0.31	0.08	0.15	
足立	0.08	0.69	1.92	15.92	1.00	0.31	1.31	0.31		0.08	
葛飾区	0.13	0.13	4.13	14.75	0.50	0.25	1.75	0.13	0.13		
江戸川	0.33	0.75	4.83	20.00	0.50	0.25	1.92	0.42		0.25	0.08
八王子市	1.27	0.64	4.73	17.00	0.27	1.09	6.09	0.64		0.18	
町田市	0.25	0.13	3.13	16.25	0.75	1.00	3.25	0.38	0.13	0.13	0.13
西多摩		0.25	1.63	4.00		1.00	3.13	0.25		0.13	
南多摩	0.33	0.22	2.00	8.44	0.89	0.44	2.00	0.56		0.11	
多摩立川	0.21	0.07	3.57	11.43	0.86	1.07	1.07	0.57			
多摩府中	0.14	0.38	5.00	15.24	1.48	0.38	2.57	0.43	0.05		
多摩小平	0.43	0.57	7.36	13.57	0.93	0.64	3.86	0.50			
島しょ											
東京都	0.24	0.40	3.59	13.64	0.67	0.69	2.10	0.39	0.03	0.06	0.03

	小児科	インフルエンザ	眼科		基幹					
	不明 発しん症	インフル エンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎	細菌性 髄膜炎	無菌性 髄膜炎	マイコ プラズマ 肺炎	クラミジア 肺炎	感染性 胃腸炎 (ロタウイルス)	インフル エンザ 入院
千代田		9.00								0.50
中央区		5.20		1.00						
みなと		6.89					1.00	1.00		
新宿区		5.08								0.50
文京		9.57								
台東		3.14								
墨田区		5.88					3.00			
江東区		7.71		1.00						
品川区		6.58								
目黒区		13.57								
大田区	0.08	13.24		1.50						
世田谷	0.13	7.16		0.50						2.50
渋谷区		5.43		3.00			2.00		1.00	1.00
中野区	0.17	12.50								
杉並		14.71		1.00			0.50			0.50
池袋		4.71		1.00			1.00			
北区	0.14	5.82		1.00						
荒川区		11.57								
板橋区		8.56		0.50			1.00		1.00	2.00
練馬区		10.57								
足立		4.89		2.00						
葛飾区		5.08					4.00			1.00
江戸川		4.63		1.50						
八王子市	0.09	5.67								1.00
町田市		5.69								
西多摩		5.71								
南多摩		9.07								
多摩立川	0.07	4.14								1.00
多摩府中	0.05	9.94			0.33		1.33			1.67
多摩小平		7.00		0.50						0.50
島しょ		12.00								

東京都	0.03	7.79		0.58	0.04		0.68	0.04	0.08	0.80
-----	------	------	--	------	------	--	------	------	------	------

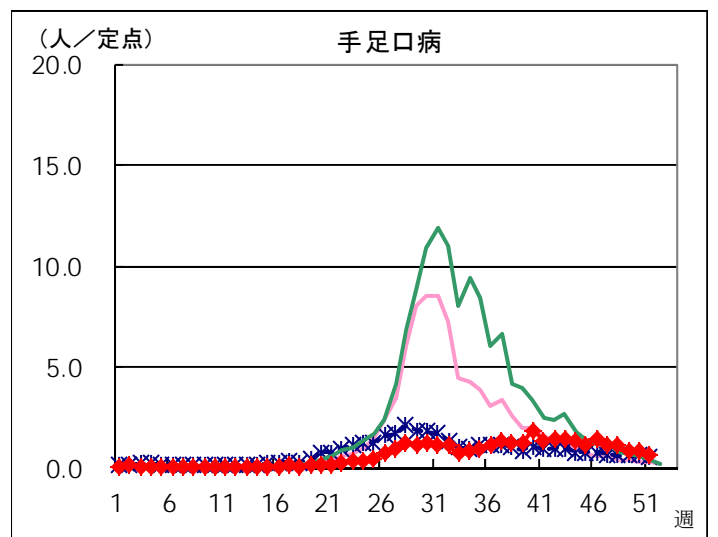
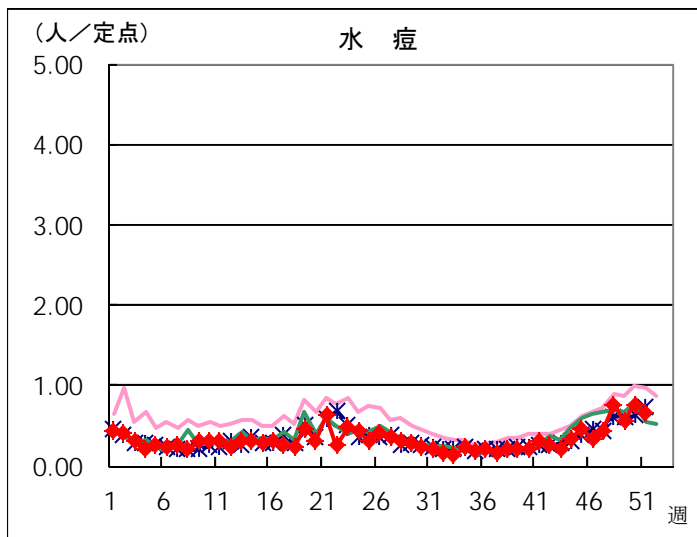
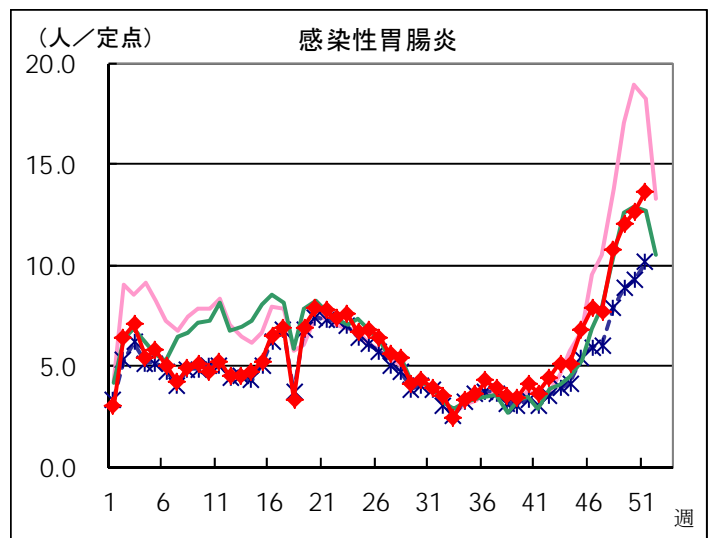
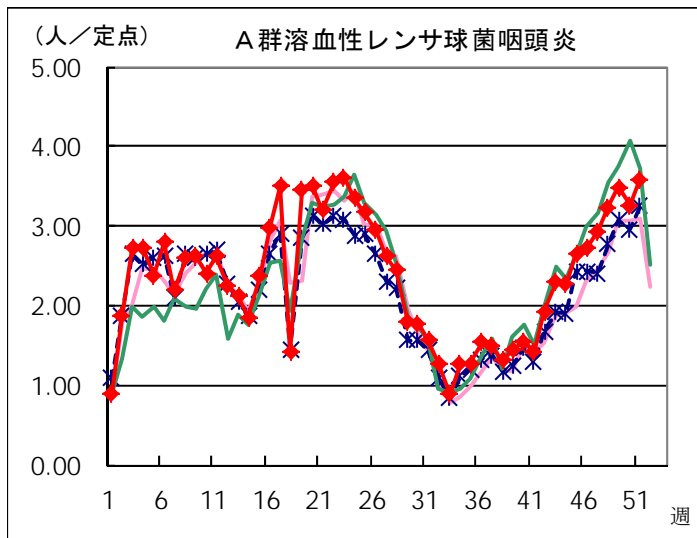
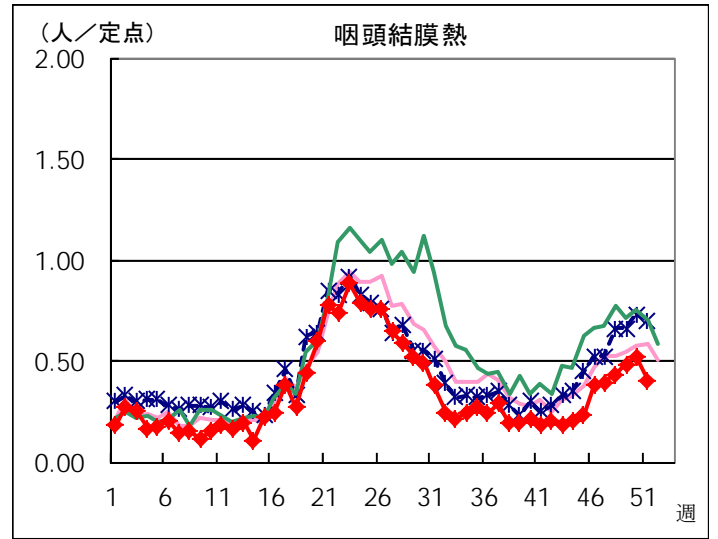
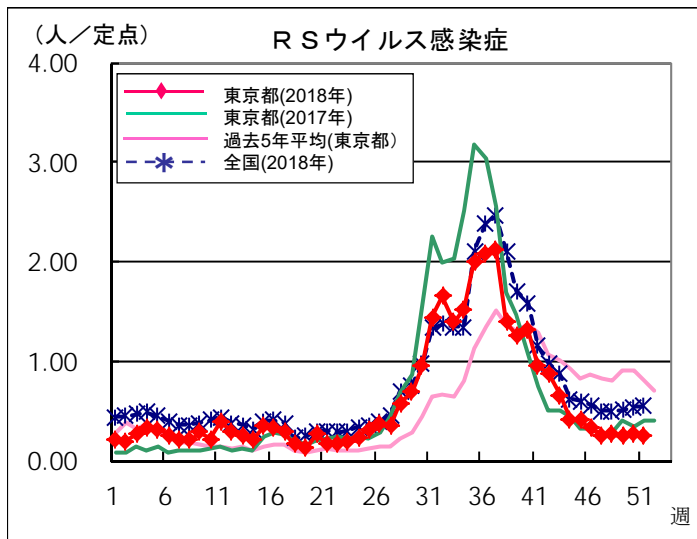
定点把握対象疾患 報告数【保健所別】 2018年51週

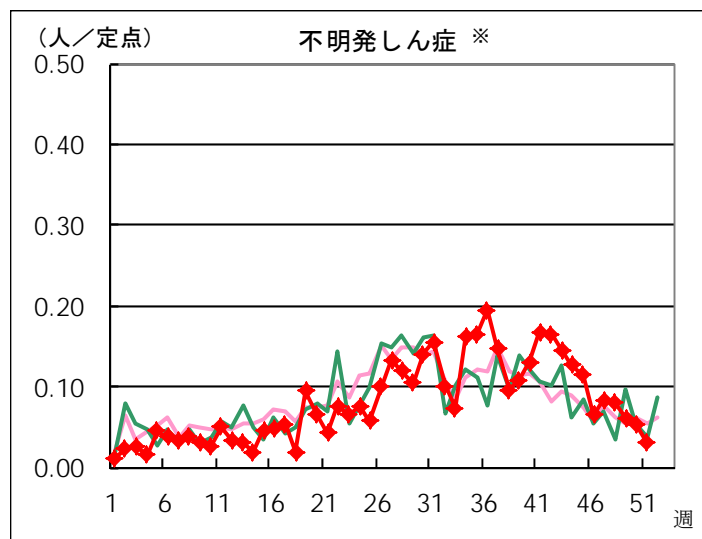
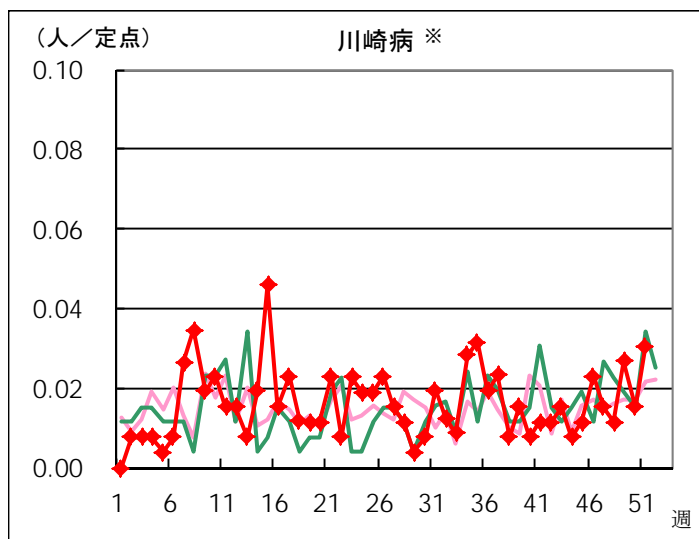
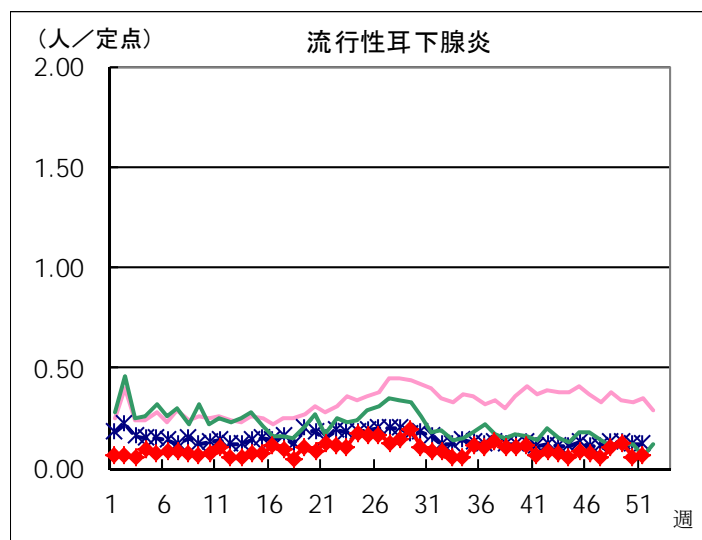
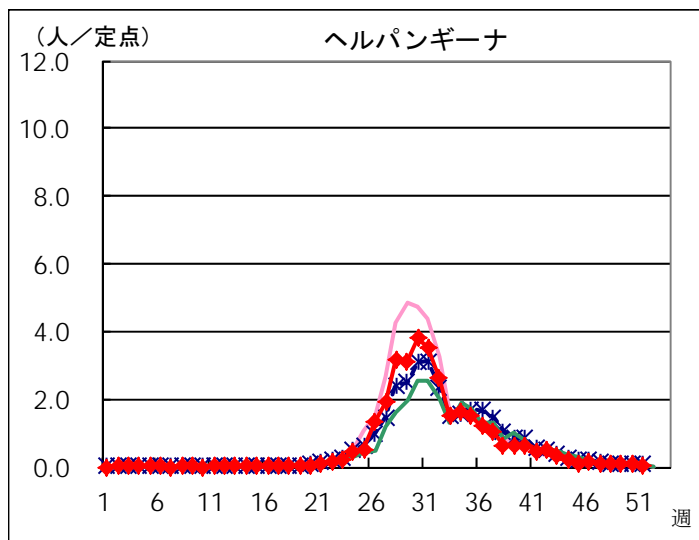
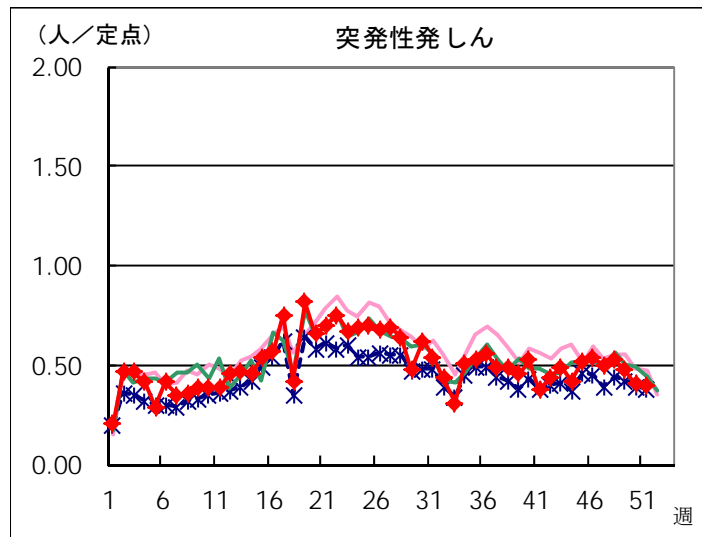
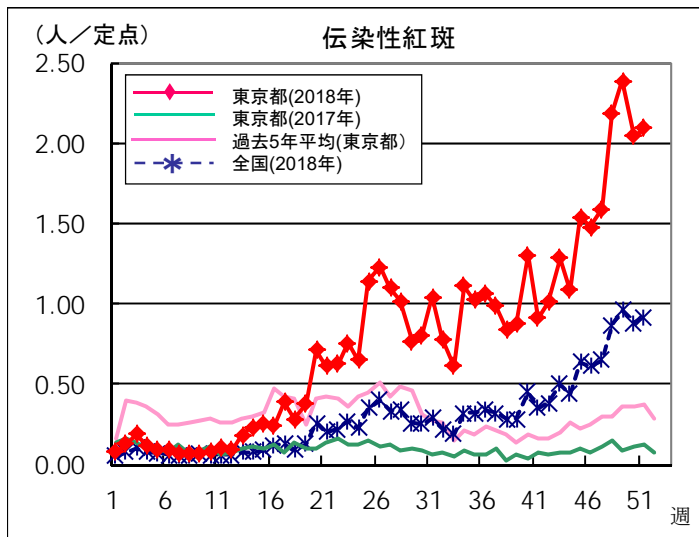
	小児科										
	RSウイルス 感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	ヘルパン ギーナ	流行性 耳下腺炎	川崎病
千代田		1	8	16			5				1
中央区		5	9	98	5	10	15	1	1		
みなと		4	29	67	2	5	11	2		1	
新宿区	5		19	63	2	1	4	2			1
文京	1	1	13	59		2	11	3		2	
台東		9	20	126	1		14	1	1		
墨田区	1	2	1	66	2		3	3			1
江東区	1		32	195	6	13	24	5		2	
品川区	1	1	11	97	2	3	14	1	1		
目黒区	2	1	24	65	1	1	7	4	1		1
大田区	2	11	36	199	7	16	23	4			1
世田谷	5	6	70	201	16	12	34	1			
渋谷区		2	2	41	1	3	3				
中野区		4	30	106	1	11	5	3			
杉並		2	47	91	3	4	15	6			1
池袋	3	2	5	9	2		4				
北区			18	71	6	6	8	3			
荒川区	3	5	17	89	3	9	6	5			
板橋区			4	88	7	2	18	4			
練馬区	3	2	63	166	12	10	12	4	1	2	
足立	1	9	25	207	13	4	17	4		1	
葛飾区	1	1	33	118	4	2	14	1	1		
江戸川	4	9	58	240	6	3	23	5		3	1
八王子市	14	7	52	187	3	12	67	7		2	
町田市	2	1	25	130	6	8	26	3	1	1	1
西多摩		2	13	32		8	25	2		1	
南多摩	3	2	18	76	8	4	18	5		1	
多摩立川	3	1	50	160	12	15	15	8			
多摩府中	3	8	105	320	31	8	54	9	1		
多摩小平	6	8	103	190	13	9	54	7			
島しょ											
東京都合計	64	106	940	3,573	175	181	549	103	8	16	8

	小児科	インフルエンザ	眼科		基幹					
	不明 発しん症	インフル エンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎	細菌性 髄膜炎	無菌性 髄膜炎	マイコ プラズマ 肺炎	クラミジア 肺炎	感染性 胃腸炎 (ロタウイルス)	インフル エンザ 入院
千代田		36								1
中央区		26		1						
みなと		62					1	1		
新宿区		61								1
文京		67								
台東		22								
墨田区		47					3			
江東区		108		1						
品川区		79								
目黒区		95								
大田区	1	278		3						
世田谷	2	179		1						5
渋谷区		38		3			2		1	1
中野区	1	125								
杉並		250		1			1			1
池袋		33		1			1			
北区	1	64		1						
荒川区		81								
板橋区		137		1			1		1	2
練馬区		222								
足立		93		4						
葛飾区		66					4			1
江戸川		88		3						
八王子市	1	102								1
町田市		74								
西多摩		80								
南多摩		127								
多摩立川	1	87								1
多摩府中	1	328			1		4			5
多摩小平		154		1						1
島しょ		24								
東京都合計	8	3,233		21	1		17	1	2	20

定点把握対象疾患 定点医療機関当たり報告数(2018年51週 現在)

◆ 小児科定点

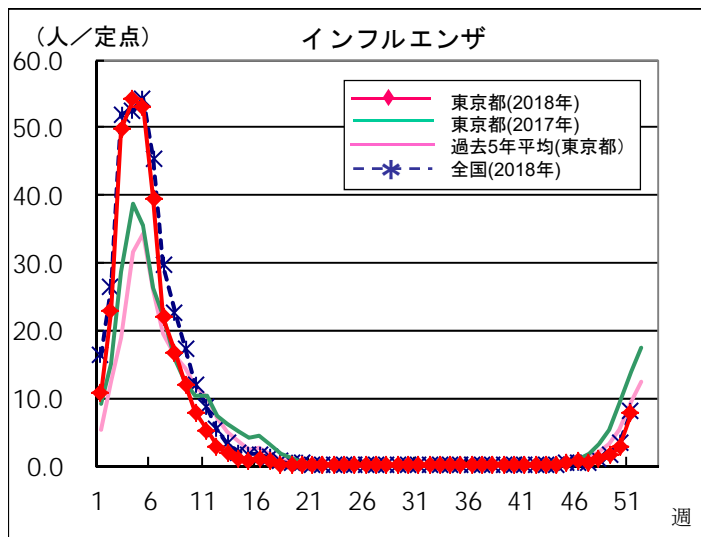




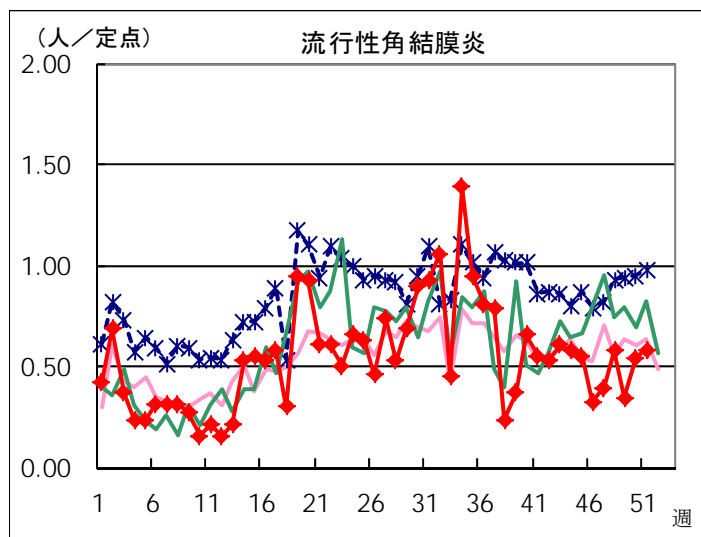
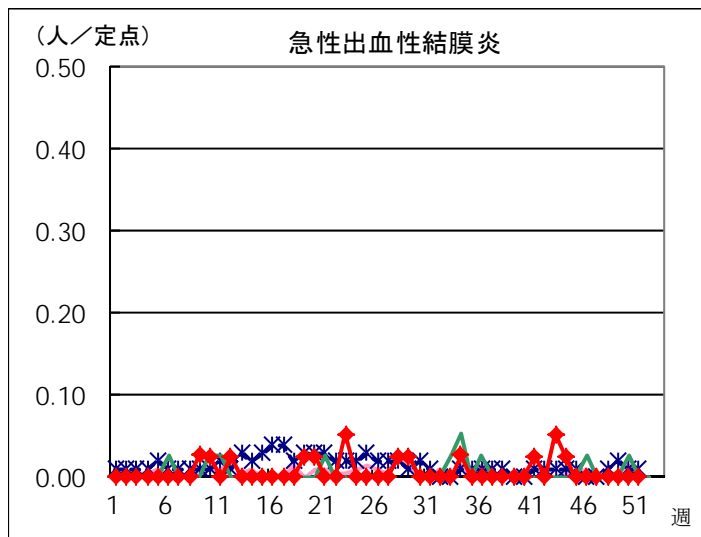
※ 東京都独自対象疾患

※ 東京都独自対象疾患

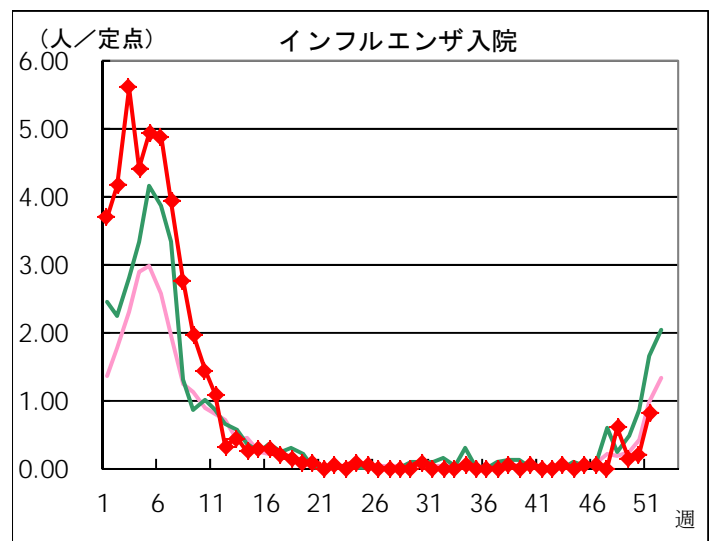
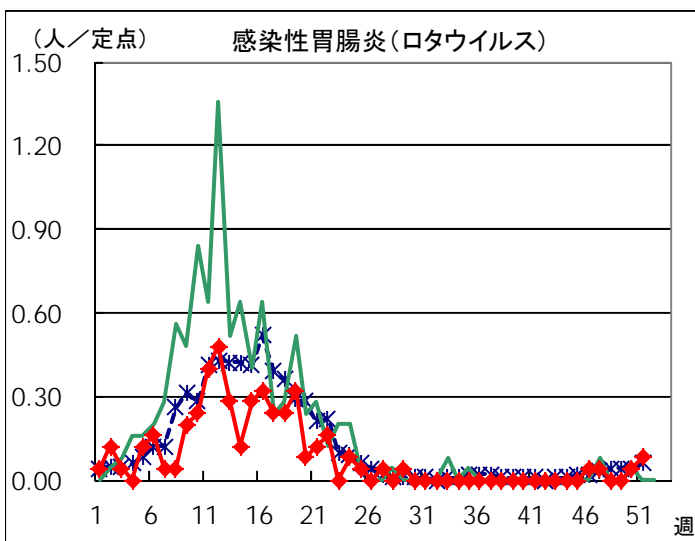
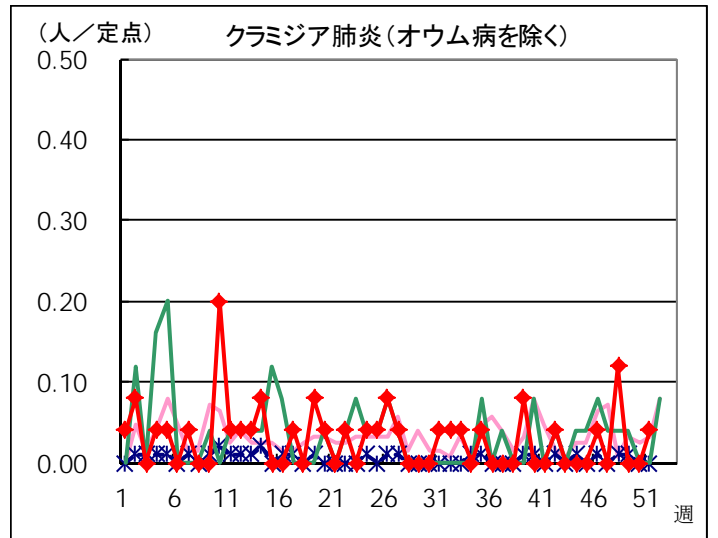
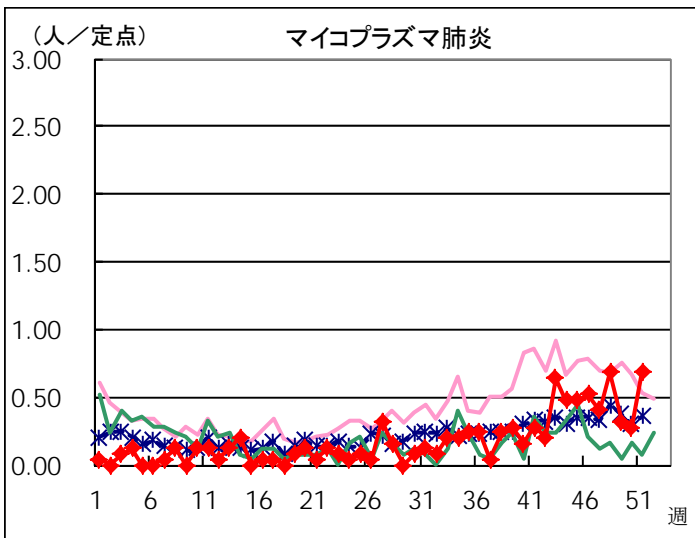
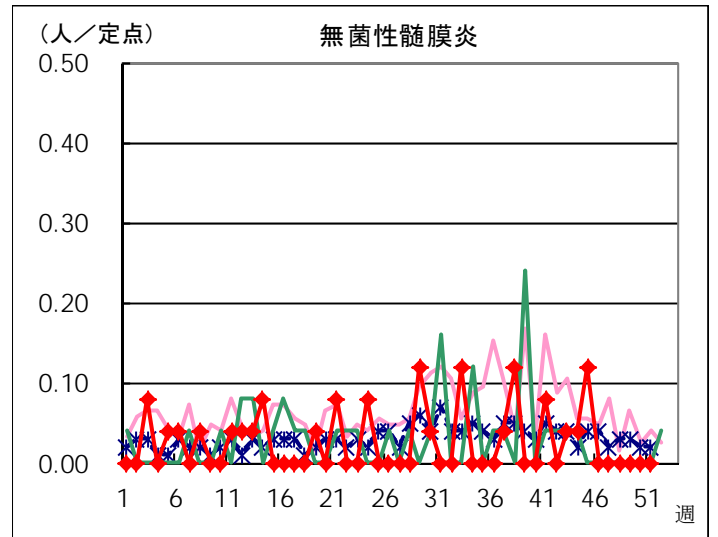
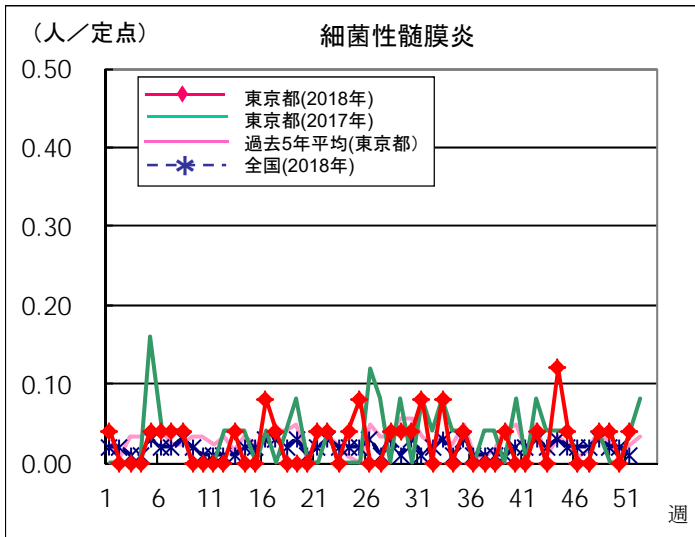
◆ インフルエンザ定点



◆ 眼科定点



◆ 基幹定点



定点医療機関から搬入された検体の検査情報

◇病原体検出状況(インフルエンザウイルスを除く)

採取日	臨床診断名	年齢	検査試料	検出病原体
12/3	咽頭結膜熱	10	咽頭拭い液	アデノウイルス3型
12/4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	9	咽頭拭い液	A群溶血性レンサ球菌T-4型
12/6	手足口病	8	咽頭拭い液	コクサッキーウイルスA群16型

◇遺伝子検査法によるインフルエンザウイルスの亜型別検出件数

	AH1pdm09	AH1亜型	AH3亜型	B型
2018年49週	6		3	
2018-2019年 シーズン累計*	22		9	

* 2018-2019年シーズンの開始は第36週(2018年9月3日～)

病原体検出情報【週別】

検出病原体	2018年							
	42週	43週	44週	45週	46週	47週	48週	49週
アデノウイルス			2		2	2	2	1
コクサッキーウイルスA群	2	3	3	2	4	2	1	1
コクサッキーウイルスB群				1				
エコーウイルス								
エンテロウイルス71	2	1	2		1			
その他のエンテロウイルス		1	1	1	1			
ライノウイルス	2	1			1			
ヒトメタニューモウイルス								
単純ヘルペスウイルス								
水痘・帯状疱疹ウイルス								
ヒトヘルペスウイルス6型・7型	1	1				2		
EBウイルス								
サイトメガロウイルス								
ムンプスウイルス								
麻疹ウイルス								
麻疹A型(ワクチンタイプ)								
風しんウイルス	1			1		1	1	
風しん1a型(ワクチンタイプ)								
ヒトパルボウイルスB19	1			1	2	1	2	
RSウイルス			1	2		1		
ノロウイルス	1				1	2		
ロタウイルス								
サポウイルス								
インフルエンザウイルスAH1亜型								
インフルエンザウイルスAH3亜型		1		1			2	3
インフルエンザウイルスB型								
インフルエンザウイルスAH1pdm09		2		3	4		3	6
その他のウイルス								
A群溶血性レンサ球菌T-1型					1		3	
A群溶血性レンサ球菌T-3型								
A群溶血性レンサ球菌T-4型								1
A群溶血性レンサ球菌T-12型	1		1				1	
A群溶血性レンサ球菌T-25型								
A群溶血性レンサ球菌T-28型			1	1			1	
A群溶血性レンサ球菌T-B3264型			2				1	
A群溶血性レンサ球菌その他のT型							1	
A群溶血性レンサ球菌T型別不能								
百日咳菌								
肺炎マイコプラズマ			1		1			
肺炎クラミジア								
髄膜炎菌								
B群レンサ球菌								
肺炎球菌								
インフルエンザ菌								
黄色ブドウ球菌								
大腸菌								
その他の細菌								
その他の病原体								

病原体検出情報 【臨床診断名別】

2018年42週～2018年49週

	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性性紅斑	突発性発疹	ヘルパンギナ	流行性耳下腺炎	川崎病	不明発疹	インフルエンザ	インフルエンザ様疾患	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎
搬入検体数	5	12	16	9	5	26	10	4	3	5		26	27	19	1			10	3	
アデノウイルス		9																		
コクサッキーウイルスA群						15			1			2								
コクサッキーウイルスB群									1											
エコーウイルス																				
エンテロウイルス71						5												1		
その他のエンテロウイルス						1						1		1				1		
ライノウイルス						1							1	2						
ヒトメタニューモウイルス																				
単純ヘルペスウイルス																				
水痘・带状疱疹ウイルス																				
ヒトヘルペスウイルス6型・7型		1				1		1				1								
EBウイルス																				
サイトメガロウイルス																				
ムンプスウイルス																				
麻疹ウイルス																				
麻疹A型(ワクチンタイプ)																				
風しんウイルス												4								
風しん1a型(ワクチンタイプ)																				
ヒトパルボウイルスB19							6					1								
RSウイルス	4																			
ノロウイルス				4																
ロタウイルス																				
サポウイルス																				
インフルエンザウイルスAH1亜型																				
インフルエンザウイルスAH3亜型														7						
インフルエンザウイルスB型																				
インフルエンザウイルスAH1pdm09														18						
その他のウイルス																				
A群溶血性レンサ球菌T-1型			4																	
A群溶血性レンサ球菌T-3型																				
A群溶血性レンサ球菌T-4型			1																	
A群溶血性レンサ球菌T-12型			3																	
A群溶血性レンサ球菌T-25型																				
A群溶血性レンサ球菌T-28型			3																	
A群溶血性レンサ球菌T-B3264型			3																	
A群溶血性レンサ球菌その他のT型			1																	
A群溶血性レンサ球菌T型別不能																				
百日咳菌																				
肺炎マイコプラズマ																			2	
肺炎クラミジア																				
髄膜炎菌																				
B群レンサ球菌																				
肺炎球菌																				
インフルエンザ菌																				
黄色ブドウ球菌																				
大腸菌																				
その他の細菌																				
その他の病原体																				

<感染症豆知識>

インフルエンザの診断と治療

(ゾフルーザ等の新しい動向)

インフルエンザ(以下、Flu)の検査診断にはウイルス分離、遺伝子検査(PCR、LAMP)、血清抗体検査があるが、2000年以降は簡便で結果が早く判定できる抗原検出迅速検査が普及し、広く臨床現場で用いられている。迅速検査の多くはイムノクロマト法で、判定部分にはA型・B型それぞれのウイルス抗原(核タンパク, NP)に対するモノクローナル抗体がライン状に塗布されており、鼻汁拭い液検体などに含まれるNPがこれら抗体と抗原抗体反応を起こして発色し判定する。

治療には、内服薬のオセルタミビル(タミフル®)、吸入薬のザナミビル(リレンザ®)、ラニナミビル(イナビル®)と静注薬のペラミビル(ラピアクタ®)などノイラミニダーゼ(NA)阻害薬がよく使用される。タミフル投与を巡っては、服用後の異常行動による転落死事例を理由に2007年以降、合併症やハイリスクのケースを除いて10代への使用を”原則として差し控える”とした「警告」の記述があったが、2018年8月に添付文書から削除された。これはFlu罹患時には、薬の種類や服薬の有無に関係なく異常行動が発現するという、厚生労働省研究班の調査報告に基づく判断による。

2018年3月14日、NA阻害薬とは作用機序が異なり、ウイルス mRNA 合成を阻害して細胞内におけるウイルス増殖を抑制する単回経口投与薬「キャップ依存性エンドヌクレアーゼ阻害薬」バロキサビル・マルボキシル(ゾフルーザ®)が発売され、治療薬の選択肢が広がった。臨床試験の結果、罹病期間とウイルス力価に基づくウイルス排出停止までの時間はプラセボ群と比較して有意に短くなっている。服用量は体重によって異なるが、1回の服用で完結するので利便性が高く、主に便中排泄のため腎機能が低下した患者にも投与量を調節せずに使用可能とされる。ただし、A型Flu患者においてアミノ酸変異株(138T変異)が認められており、今後も基礎的、臨床的な検討を要する。

(文責 萩原医院(東京小児科医会) 萩原温久)